昭和女子大学現代教育研究所紀要　第５号　111～117（2019.12）

《実践報告》

「中１ギャップ」の解消を目指したリタラシー指導

岡﨑　伸一（現代教育研究所研究員）

１．はじめに

小学校において外国語活動で「英語」が導入され、一定の効果を上げている。たとえば、ベネッセ「小学生の英語学習に関する調査」（2015）プレスリリースによれば、「小学５・６年生の６割が「教室の外で英語を使ってみたい」という意欲を示している」。また、「「外国語活動」は、英語で「コミュニケーションを図ろうとする態度」を育成している」とした。その一方で中学校に入学してくる生徒の「英語力」格差が広がっている感がある。現任校では中学１年生に当たる７年生で、英検準２級取得者もいれば、アルファベットの習得もおぼつかない者もいるという現状である。

また、ベネッセの「小・中学校の英語教育に関する調査」速報版（2012）においては、「小学校卒業までにやっておきたかったと思うこと」の質問の回答では、「英単語を書くこと」が33.1％で最多であり、全般的に読み・書きに関する回答が多かった。中学生になると教科書で学習することになるため、文字に関することの必要性が高くなることもうなずける。

筆者が中学１年生を担当するたびに悩んでいたのは、文字に関する指導であった。今現在でも音と文字の一致が難しい生徒が年々増えているように感じている。この音と文字を一致させることが厳しい面に「中１ギャップ」があると仮定し、そこに悩む最後の１、２割の生徒をなんとかしたいと藁をもつかむ思いで、2012年度に品川区立小山台小学校との共同研究に着手した。そこでの実践を基に行ってきたリタラシー指導に関して記していきたい。

２．入学直後の調査から

2017年度にCan-doリストによる生徒自身のアンケート結果の推移を示しながら、リタラシー指導の効果検証について口頭発表をした。2018年度は、その発表後に実施したアンケートの推移や指導実践とその効果についても継続調査をしてきた。

（1）実践概要

① 中学入学後の４月での調査

現任校での使用教科書には、英語で「できるようになったこと」リストが付録部分に掲載されている。いわゆるCan-doリストである。そのリストの中学１年生に該当する部分をSQS（Shared　Questionnaire System）のマークシート式で回答できるアンケートを作成した。スキャナで読み取ることで集計もすぐにできる優れものである。

このリストは、聞く・話す・読む・書くの４技能別でそれぞれ６、９、９、６項目ある。これを「よくできている」、「大体できている」、「あまりできていない」、「できていない」の４段階で自己評価をさせた。この中からリタラシー指導に関する６項目を抽出し、「あまりできていない」と「できてない」の否定的回答は、音素レベルで27％（表１）、単語レベルで17%（表２）、語句で37％（表３）、単

文で39％（表4）、複数の文で43％（表5）、教科書の文章で58％（表6）となり、値が徐々に大きくなっていた（参加者は中学1年生82名）。

表1【話1】アルファベットを見てその文字を発音することができる。（例：A, B, C…の全部の音読み（エア、ブァ、ク…）と言える。）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	41（50%）	19（23%）	16（20%）	6（7%）	0（0%）	82（100%）

表2【読5】日常生活の身近な単語を読んで理解できる。（例：dog / eat / happy）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	46（56.1%）	20（24.4%）	9（11%）	5（6.1%）	2（2.4%）	82（100%）

表3【読6】日常生活の身近な語句を読んで理解できる。（例：in the morning / at home）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	29（35%）	20（24%）	21（26%）	9（11%）	3（4%）	82（100%）

表4【読7】日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解できる。（例：I play basketball every day.）*四捨五入による誤差あり

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	29（35%）	19（23%）	24（29%）	8（10%）	2（2%）	82（100%*）

表5【読8】日常生活の身近なことを表す簡単な2文以上の文章を理解できる。

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	26（32%）	19（23%）	25（31%）	10（12%）	2（2%）	82（100%）

表6【読9】教科書をなめらかに音読することができる。*四捨五入による誤差あり

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	9（11%）	23（28%）	29（35%）	19（23%）	2（2%）	81（100%*）

②「中1ギャップ」解消のために

上述のような否定的回答を減らす手立てとして、今まではボトムアップ・アプローチに基づくリタラシー指導をすることで一定の成果を挙げてきた。しかし、2017年4月の授業中の反応などを見ると例年よりも苦手意識が高い生徒が多いと感じられた。また、入学前の聞き取りでは、学習に対して要支援で引継ぎをされている生徒は例年よりも多かった。

そこで、それまで教科書での指導の時期を6月半ばにしていたのだが、この時はさらに少し遅らせて1学期の期末考査を終えた7月に設定した。その遅らせた時期にBasal Readersとして、やさしい

フォニックスルールで読めるものを使用した。それは、教科書ではフォニックスルールで音読できない語にすぐに出合ってしまうことが多々あるからだ。Basal Readersを自力で音読できるようになることで、リタラシー指導がより意義あるものだと認識させることもねらいとしていた。このようにBasal Readersを教科書との橋渡しとした。

授業のどの時点でこのリタラシー指導を行うかは、図１のリタラシー指導の場面での導入部分にて帯活動で行っている。図内の左が文法指導であり、右が教科書での本文指導になっている。これらの展開とまとめ部分にあるリタラシー指導については教科書指導に関わる部分である。ここでの「中１ギャップ」解消のためのリタラシー指導については前者のことである。

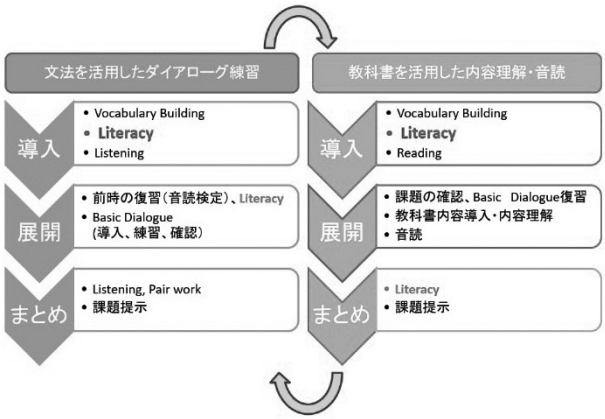

図１　リタラシー指導の場面

③ リタラシー指導で行うこと

英語科の「中１ギャップ」を解消する手立てとして、具体的には以下の五つである。A. Alphabet（音素体操）〈Phonetic awareness〉、B. Onset & Rime、C. Phonics、D. Sight Words、で指導していく。そして、教科書の開本前にE. Basal Readersを音読できるところまで指導する。

A. Alphabet（音素体操）〈Phonetic awareness〉

「音素体操」とは、Total Physical Response（T. P. R.）の原理で実際に体を動かしながらアルファベットを学ぶことである。動作の一つひとつは音素を表している。文字の名前は小学生の時からとても馴染みがあり、知らない生徒はいない。その文字の名前から音を認識させていく。例えば、B（ビィ*）は二つの音素からなり、音素体操でも二つの動作からなる。そこから、イ*の音を抜くと、ブ*というBの音となる。共通している音は同じ色で示している（たとえば、B, C, D, G, P, T, V）。詳細は、開発者であるアレン玉井光江先生の著書『小学校英語に教育法　理論と実践』（大修館書店）にある。*便宜上、カタカナで音を示している。

B. Onset & Rime

図２のように単語や絵等をプレゼンテーションソフトで提示している。たとえば、etのrime を示し、最初の単語を提示する。ここではnetである。そしてonset を変えながらテンポよく読んでいく。各単語にそれぞれの絵も提示していく。他には、-at, -an, -en, -igなどの

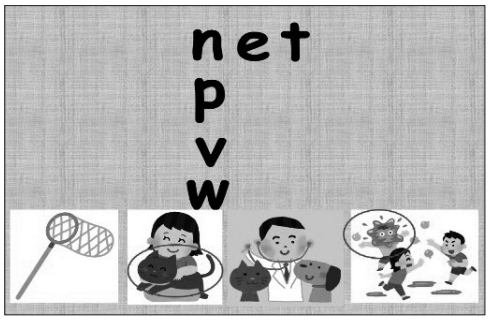

図２　Onset & Rimeの指導例

レベル	LEVEL 0	LEVEL 0	LEVEL 0	LEVEL 0	LEVEL 0
本番号	B1	B2	B3	B4	B5
難易度	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
タイトル	Hen and Fox	Hot, Hot, Hot	Dan and Lin	On the Bus	Dig, Dig, Dig
Word Count	12	10	27	21	28
異なり語数	7	8	18	16	14
Words	and	mat	and	cap(s)	and
Short Vowels	bag	red	can	hat(s)	ham
a	beg	wet	Dan	rat	man
e	hen	pig	ham	ten	bed
i	hit	hop	jam	it	dig
o	fox	hot	net	big	Kim
u	run	cup	red	six	gum
Sight Words		sun	ten	on	nut
Silent E			big	box	pup
Polite Vowels			fig(s)	bug(s)	a
Consonant Digraphs			Lin	bus	the
Vowel Digraphs			pin	fun	has

図３　語彙指導における語彙分析

rimeを使って指導をした。これらの語彙選定は、図3のようにBasal Readersで使用されている語彙からOnset & Rimeで指導できるものを抽出した。同様の方法で、教科書内の語彙についても教科書を開く前に指導しておく。このように整理していくことで、語彙指導に見通しをもつことができる

C. Phonics

Phonicsでは、教科書のProgram4までの語彙を調べてみるとsh、ch、th、ph、wh、ng、ee、ea、サイレントeが多くあり、それらをプロジェクターで投影し、授業のウォーミングアップで読ませる活動をする。音の足し算であるBlendingの指導も行う。

D. Sight Words

これはphonicsのルールに当てはまらず、理屈抜きで覚えて欲しい語句のことである。これに当てはまる語彙は意外に多い。そのために、この指導も並行していくことで、教科書指導に入った際に対応できるようにするために、Sight Wordsに当たる語い数も徐々に増やしながら指導していく。

E. Basal Readers

先述のA～Dで生徒が学習してきたやさしいフォニックスルールで読める絵本の教材である。教室ではプロジェクターから投影し、教師から初めに全体に読み聞かせをする。そして、全体で語句や文章を音読し、それからペアでお互いに読み聞かせをさせている。A～Dで学習してきたことを頼りに自力で読めるようになるのが目的である。この時点において自力で音読できる体験をさせて、教科書での指導にスムーズにつなげていくことも目的の一つである。中学1年1学期から中学2年2学期終了まで計40冊を使用した。

④ 実践効果としての1年間の推移

2017年4月に実施した表1～6のアンケートと同様なものを7月、11月、3月に実施し、リタラシー指導に関する6項目について比較したものが以下の表7である。

表7

【話1】アルファベットを見てその文字を発音することができる。（例：A,B,C...の全部の音読み（エア、ブァ、ク...）と言える。）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	41（50%）	19（23%）	16（20%）	6（7%）	0（0%）	82（100%）
7月	44（54%）	30（37%）	5（6%）	0（0%）	2（2%）	81（100%）
11月	50（61%）	28（34%）	1（1%）	2（2%）	0（0%）	81（100%）
3月	52（65%）	27（33%）	0（0%）	1（1%）	0（0%）	80（100%）

【読5】日常生活の身近な単語を読んで理解できる。（例：dog / eat / happy）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
4月	46（56.1%）	20（24.4%）	9（11%）	5（6.1%）	2（2.4%）	82（100%）
7月	53（65%）	16（19%）	6（7%）	2（2%）	4（4%）	81（100%）
11月	54（66%）	23（28%）	3（3%）	1（1%）	0（0%）	81（100%）
3月	57（71%）	21（26%）	1（1%）	1（1%）	0（0%）	80（100%）

【読６】日常生活の身近な語句を読んで理解できる。（例：in the morning / at home）

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
４月	29（35%）	20（24%）	21（26%）	9（11%）	3（4%）	82（100%）
４月	38（46%）	28（34%）	10（12%）	4（4%）	1（1%）	81（100%）
11月	35（43%）	33（40%）	11（13%）	2（2%）	0（0%）	81（100%）
３月	49（61%）	25（31%）	2（2%）	3（3%）	1（1%）	80（100%）

【読７】日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解できる。（例：I play basketball every day.）*四捨五入による誤差あり

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
４月	29（35%）	19（23%）	24（29%）	8（10%）	2（2%）	82（100%*）
７月	41（50%）	25（30%）	13（16%）	1（1%）	1（1%）	81（100%）
11月	36（44%）	36（44%）	7（8%）	2（2%）	0（0%）	81（100%）
３月	49（61%）	25（31%）	3（3%）	1（1%）	2（2%）	80（100%）

【読８】日常生活の身近なことを表す簡単な２文以上の文章を理解できる。

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
４月	26（32%）	19（23%）	25（31%）	10（12%）	2（2%）	82（100%）
７月	32（39%）	32（39%）	15（18%）	2（2%）	0（0%）	81（100%）
11月	34（41%）	34（41%）	9（11%）	4（4%）	0（0%）	81（100%）
３月	44（55%）	30（37%）	4（5%）	2（2%）	0（0%）	81（100%）

【読９】教科書をなめらかに音読することができる。*四捨五入による誤差あり

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	無回答	計
４月	9（11%）	23（28%）	29（35%）	19（23%）	2（2%）	81（100%*）
７月	32（39%）	34（41%）	9（11%）	3（3%）	3（3%）	81（100%）
11月	27（33%）	39（48%）	12（14%）	3（3%）	0（0%）	81（100%）
３月	37（46%）	31（38%）	8（10%）	3（3%）	1（1%）	80（100%）

表７の「あまりできていない」と「できてない」の否定的回答は、４月よりもこの６項目全てで減少傾向が見られ、１学期から実践してきたリタラシー指導の効果があったと言えるだろう。11月の時点では、音素、単語、単文、複数の文の４項目でさらに減少傾向になり、語句と教科書の文章の２項目で横ばいであった。横ばい傾向のものは、レッスンが進むにつれ文が長くなったり、文法項目や語彙が難しくなってきたりしていることが考えられるが、３月には減少傾向になっていた。

（2）教科書指導につなげる

ここまでの指導を図４のようにダイアローグ指導やBingo、教科書指導と合わせながら、教科書本文をすらすら読める手立てとして教科書指導までの流れである。

Onset & Rime、Phonics & Sight words
＋
ダイアローグ指導（新出文法事項）
＋
Bingo、Oral introduction（教科書指導）、辞書指導
↓
Flash cards
↓
教科書音読（音読練習＆音読検定）

図４　教科書指導までの流れ

Bingoの時は、onsetの音を強調してやっている。例えば、coolとあれば、「c［k], c, c, cool, C［sí:], O［óu], O, cool」と読み上げることで、生徒はonsetに注目するよう

になる。時として、上のcoolであるならば、onsetの音を繰り返している間に生徒たちが「Cool!」などと、どの単語なのかを言い当てるようになる。

教科書内容の口頭導入は全てのprogramで教科書の英文通りで行ってきた。そのことにより、ピクチャーカードを活用しての口頭導入の音声と黙読や音読する文字との一致がさせやすくなる。

音読検定とは、教科書本文の内容理解後に音読練習をし、まずはすらすら読めることを目標としてペアで評価をすることである。家庭学習で箱読み（音読5回で教科書隅にある一つの箱を塗る）と星読み（音読5回で☆を一つ描く）をさせ、次の授業の復習時に音読検定と称し、ペアで図5の評価基準で実施する。音読検定導入時には、教師が見本を見せ、評価の練習をさせる。そうすることで生徒も同じようにペアで評価できるようになる。そして、教科書ページの右上に評価を残すようにさせた。その結果は図6のようになった。

1回もつっかからずにできたら → A
1回つっかかった → B
2回以上つっかかった → C

図5　音読検定の基準

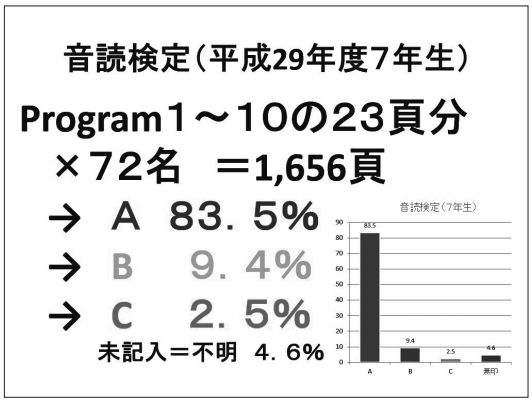

図6　音読検定の達成率

3. おわりに

リタラシー指導（前述の2（1）③A～E）を入学時から中学2年の2学期終わりまで継続し、その後は、定期考査で確認しながら、検討、修正をすることで、どの生徒も読解問題に取り組み、正解を得られる基礎力を身につけさせることにつなげていく。

リタラシー指導は、小学校の新学習指導要領の外国語科では、「1　目標」の（2）「読むこと」に「ア　活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」と目標の一つとして明記されている。そして、中学校外国語では、リタラシー指導そのものは「知識及び技能」に含まれる。知識として知っていることは必須であるが、その知識を活用できる技能として身に付けることが、中学校の授業での「読むこと」と「書くこと」を支える基礎となるのである。だからこそ、中学校入学後から継続的に長期的に少しでもリタラシー指導をしていくことが「中1ギャップ」解消の手立ての一つになり得るだろう。

参考・引用文献

アレン玉井光江（2010）『小学校英語の教育法　理論と実践』大修館書店

田中真紀子（2017）『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』研究社

ベネッセ（2012）「小・中学校の英語教育に関する調査」速報版（2012）
https://berd.benesse.jp/up_images/research/soku_all.pdf（2016/12/29アクセス）

ベネッセ（2015）「小学生の英語学習に関する調査」プレスリリース
https://berd.benesse.jp/up_images/research/pressrelease1105.pdf（2016/12/29アクセス）

文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　外国語活動・外国語編」開隆堂
湯澤美紀、湯澤正通、山下佳世子編著（2017）『ワーキングメモリと英語入門』北大路書房